

令和 2 年 4 月 23 日現在

機関番号：34418

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2019

課題番号：15K03489

研究課題名（和文）縫製業で働く女性労働者の実態と競争力優位 - アジア4カ国の比較分析から -

研究課題名（英文）The Circumstances of Female Apparel Workers and Competitive Edge : The Comparison among Four Countries

研究代表者

内田 智裕 (Uchida, Tomohiro)

関西外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：50330220

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、世界の成長セクターとして脚光を浴びているアジアの4カ国である中国、ベトナム、バングラデシュ、ミャンマーを対象国として選び、それらの国の主要な輸出産業である縫製業で働く女性労働者の実態を明らかにすることであった。また、各国の縫製業を取り巻く経済環境の内部的・外部的要因を考慮に入れ、各国の人的資本を中心した競争力優位を考察した。

調査対象国に共通してわかったことは、貧困撲滅と雇用創出との関係がプラスであるということである。特にバングラデシュやミャンマーなどの最貧国では、縫製業部門への就業を通じて女性の社会進出が以前よりも彼女たちの社会的地位を上げて、経済的な豊かさをもたらした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

企業が競争力を持った国際分業体制の構築を実現するには、政府機関で発刊されているマクロ経済データの情報収集だけでは不十分である。単に労働構造やマクロ経済に関する二次資料を用いて分析するのではなく、労働者の属性や処遇に関する企業内データに加え、職務意識、職務満足、就労環境に関する労働者の反応に注目する必要がある。

応募者のこれまでの研究成果は日本貿易振興機構等を通じ、日系企業を中心に還元されてきた。中国への投資集中リスクを避け、他のアジア諸国をグローバル事業の展開先として位置づける日本企業が増える中、本研究からの成果は実業界および学会において多大な貢献をもたらしたと自負している。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to select four Asian countries, China, Vietnam, Bangladesh, and Myanmar, which are in the spotlight as the world's growth sectors and to clarify the actual condition of the female workers employed in the garment sector. In addition, considering both the internal and external factors of the economic environment surrounding the garment industry in each country, I tried to find the competitive advantage of each country centered on human capital.

What I commonly found in the surveyed countries is that the correlation between poverty eradication and job creation is relatively positive. Especially in the poorest countries such as Bangladesh and Myanmar, women's social advancement through engaging in the garment sector has raised their social status more than before and brought economic wealth.

研究分野：開発学

キーワード：女性労働者 人的資源管理 縫製業 バングラデシュ ミャンマー ベトナム 中国

## 研究成果報告

### 1. 研究開始当初の背景

新興諸国は廉価な労働力を利用できる生産拠点と同時に、急速な経済成長に伴う巨大な消費市場としての要素を持っていた。しかしリーマンショック以降、中国においてさえも賃金の高騰、所得分配の不平等の拡大、政策運営の不確実性等により、投資リスクが高まっている。このような状況の中、チャイナ・プラス・ワンとして注目されているのが、ベトナム、バングラデシュ、ミャンマーといったアジア新興国である。これら諸国は1人当たりGNIが未だ1,000ドル前後の低所得国であるが、若年層を中心に人的資本の蓄積が進みつつある。産業発展の雁行型構造を考えれば、これら諸国は労働集約的産業に対する有力な投資先になっており、世界経済の構図に変化を及ぼす可能性さえある。

応募者は「バングラデシュにおける熟練労働力の形成 - パネル調査による検証」という研究課題で、平成23年度 - 26年度科学研究費助成金を受けた。本研究では、応募者が2003年以前に行った調査から約10年経ち、バングラデシュの日系および現地系企業の生産環境、競争戦略、人的資源管理(HRM)、技能形成がどのように変化しているかを考察し、新たな学術的成果を出した。しかし、同じ日系企業でもバングラデシュ以外の国で生産拠点を構えた場合、適用・適応の仕方でどのような影響が生じるかを調査することができなかった。応募者が2014年8月に東アジア経営学会国際連合ベトナム大会に出席し、各国の研究者と議論で明らかになったことは、一般労働者の賃金水準がほぼ同じ縫製業のような輸出志向型工業であっても、生産拠点の違いによって競争戦略や効率的なHRM制度が大きく異なってくるということである。

縫製業と女性労働者に敢えて限定した理由は、第1に縫製業が調査対象国にとって重要な輸出産業(品目別の2012年輸出額で見た場合、中国は第3位、ベトナムは第1位、ミャンマーは第3位、バングラデシュは第1位)であることから、外貨獲得や雇用創出に大きな役割を果たしている産業と位置づけられていること、第2に応募者が単独で4カ国を比較する研究であることから業種を広げずに一つに絞る方が良いこと、第3に応募者は今まで途上国の企業を何百社訪問してきたが、縫製業が女性労働者の比率が圧倒的に高い業種である上に、彼女たちの職務意識、技能形成、対人関係も含めた就労環境が企業の競争力を左右する大きな要素であること、第4に女性の社会進出に伴う世帯的地位や日常生活の変化を確認したいからである。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、世界の成長セクターとして脚光を浴びているアジアの4カ国である中国、ベトナム、バングラデシュ、ミャンマーを対象国として選び、それらの国の主要な輸出産業である縫製業で働く女性労働者の実態を明らかにすることであり、そのために属人的要素(給与水準、学歴、就労経験、家族構成等)、組織行動(職務満足、組織コミットメン

ト、組織文化等）生産性と関連した技能形成に注目した。加えて、各国の縫製業を取り巻く経済環境の内部的・外部的要因を考慮に入れ、これら 4 カ国の競争力優位を考察する予定である。この研究課題を取り組むに当たっては勿論、各国の法制度、教育制度、社会構造（地位や特権に対する社会認識、ジェンダー問題、個人・集団主義観）といった地域研究的要素も絡めて学際的展開を図った。

### 3．研究の方法

本研究の方法は、経営者管理者および労働者との面談調査、質問票調査、生産現場での参与観察、労働者に対する職場外での聞き取り調査、国内外での文献収集から構成されている。本研究の中軸は現地調査であるが、縫製業という特定の産業をテーマにしているため、必要ならば縫製製品の製造に関わる日本の専門家・技術者からのヒアリングを行った。その上で現地に赴き、経営者管理者および労働者とのラポートを築いて調査を進めた。方法論は、数量的データだけでは説明できない事象は個々の労働者のケーススタディを通じて確認し、分析を多面的に展開した。勿論、調査対象国のマクロ経済事情、各国の工業部門における縫製業の位置づけや変遷、女性労働者の経済社会的地位、先行研究のレビューを把握した。

個人票の具体的な質問内容は、労働者の属性、就労経験、就労動機、企業への帰属心、職務満足、技能形成の方法や技能水準などの項目から構成されていた。企業票の内容は企業の特長、人的資源管理、企業内訓練、労働者の技能形成に関連した項目によって構成されており、経営者管理者への面談調査および質問票調査を通じ、人的資源管理制度の現状や問題点を明らかにした。一方、現場観察では労働者が働く現場を観察しながら、現場の実態をじっくりと観察することが肝要になってくる。現場に直接出向くことで、その場の全体的な雰囲気、作業の管理運営、労働者の行動パターンをつぶさに観察することが重要である。労働者の生産性が上がるような職場環境であるか、安全面や衛生面に留意した労働環境であるかを確認するために、24 の質問項目から成るチェックシートを用いた。

### 4．研究成果

貧困撲滅と雇用創出との関係は明らかであり、縫製業部門への就業を通じて女性の社会進出が以前よりも彼女たちの社会的地位を上げて、経済的に豊かにしたことは言うまでもない。女性の社会進出は第 1 に家計の収入の増加に寄与し、第 2 に男性の所得への依存度を減らし、第 3 に貯蓄や土地といった経済資源の所有を可能にし、第 4 に男性からの暴力の可能性を減らし、第 5 に家計の資産に対して公正なアクセスを確保でき、第 6 に保健や教育といった人的資源投資を増やすことにつながった。

しかしその一方で女性労働者が抱える問題は、第 1 に昇給や昇進の展望が描きにくいこと、第 2 に仕事からの肉体的・精神的負担が彼女たちの健康維持を難しくしていること、第 3 に労働組合、労働法へのアクセスや情報不足が彼女たちの労働条件を男性に比べて不利にしていることなど、未だ解決されない問題が残されている。

女性労働者の労働環境を向上させて生産性を高めるためには、彼女たちを取り巻く様々なステークホルダーである国際機関、当事国政府、先進国政府、**NGO**、企業、工業組合、消費者などが協力する必要がある。但し、今回の調査で確認できたことは生産立地国、資本形態別に関係なく、企業の経営者管理者が最も気にかけているのはバイヤー、特に欧米、日本などの先進国のバイヤーの目である。先進国の消費者はアパレル製品の購入を決定する一つの要素として、製品を作っている労働者の労働環境にも目を向けだしている。労働者の権利にも配慮した労働環境の構築が国際社会から信認を得られることにつながり、製品の付加価値やブランド価値を中長期的に高めることになる。

ベトナムの縫製工場で現地調査を行った時、その女性労働者の **62%**が就労動機に対する回答として「将来の起業のため」を挙げた。バングラデシュを除く中国においても同じような回答結果が見られた。男尊女卑で家父長制度が色濃いバングラデシュでは、父、長男からの指示は絶対に服従する必要がある、女性が起業するような社会的な風潮には至っていないが、バングラデシュよりも宗教色が薄く、経済水準はるかに上回っている中国やベトナムでは、女性の起業家精神が豊かになりつつある。

国際労働機関の統計では、ここ **10** 年の間にアジアの女性就労率は急増しているが、仕事をしているからといって経済的に自立しているとは言い難い。たとえ小規模であっても自分の会社や店を持って初めて、彼女たちの社会経済的地位が向上し、就労意欲が高まる。社会的地位の低い女性が起業する際に、大きな障害となるのがフォーマルな金融機関からの資金的アクセスの難しさである。ここに、次回の研究テーマのシーズがあると考え、最終年度においては、小規模融資を受けている女性起業家に予備調査を行い、新たな知見も得られた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 内田智大	4. 巻 20
2. 論文標題 アパレル産業の女性労働者の実態と競争力優位 - 新興4カ国の事例（上）	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人権を考える	6. 最初と最後の頁 pp.25-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 内田智大	4. 巻 21
2. 論文標題 アパレル産業の女性労働者の実態と競争力優位 - 新興4カ国の事例（下）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人権を考える	6. 最初と最後の頁 pp.19-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 内田智大	4. 巻 21
2. 論文標題 貧困問題に関するマイクロファイナンス（MF）の役割と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人権を考える	6. 最初と最後の頁 pp.39-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 内田智大	4. 巻 22
2. 論文標題 マイクロクレジットの女性起業家への社会経済的影響 あるフィリピンのNGOの事例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人権を考える	6. 最初と最後の頁 pp.21-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Tomohiro Uchida	4. 巻 1
2. 論文標題 The Case of a Microfinance NGO in the Philippines: The Program Impacts and Innovation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Federation of East Asian Management Associations	6. 最初と最後の頁 pp.1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 内田智大
2. 発表標題 縫製業で働く女性労働者の実態 - アジア新興国の比較
3. 学会等名 アジア経営学会第23回全国大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tomohiro Uchida
2. 発表標題 The Relationship between Human Resource Management and Skill Formation: The Case of Garment Industries in the Three Emerging Economies
3. 学会等名 IFEAMA, Nepal (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tomohiro Uchida
2. 発表標題 The Case of a Microfinance NGO in the Philippines: The Program Impacts and Innovation
3. 学会等名 International Federation of East Asian Management Associations, Kyoto University (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1．著者名 Tomohiro Uchida	4．発行年 2017年
2．出版社 International Federation of East Asian Management Associations 2017	5．総ページ数 18 pages
3．書名 The Relationship Between Human Resource Management andSkill Formation: The Case of Garment Industries in the Three Emerging Economies	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----